

ペダルを踏んで 東の方へ

サドルの高さが上手く合わなくて
乗り心地の悪い自転車
錆びて汚くてフレームが歪んで
ガタガタいいながら走る

そいつに跨がって ゆくのさ 果てを見に

ペダルを踏んで 東の方へゆく
あともう少しすれば 海が見えるだろう
ほら息を切らして 東の方へゆく
あともう少しすれば 海が見えるだろう

慣習や通例 暗黙の了解
乗り心地の悪いリズム
サビも汚くてフレーズが歪んだ
ガタガタ言わないな やるさ

こいつに跨がって ゆくのさ 果てを見に

ペダルを踏んで 東の方へゆく
あともう少しすれば 海が見えるだろう
ほら息を切らして 東の方へゆく
あともう少しすれば 海が見えるだろう

もう少しすれば 海が見えるだろう

ねえ、こないだはふざけ過ぎて
ねえ、朝が来て照れる
ねえ、この部屋じゃブーツは脱いで
ねえ、いるだけで嬉しすぎて

背中を見せて追い出して
広がる部屋にいて
何が楽しいんだろう

膝を抱えて
君を待っている 君を待っている
君の声が呼ぶのを
僕は待っている

ねえ、躓いてしがみついて
ねえ、笑うのもいいね
そう、いつまでも楽しかないね
そう、暇そうで気に入らないね

小さい指が恋しくて
眺める空は ねえ
なんて深いんだろう

膝を抱えて
君を待っている 君を待っている
君の声が呼ぶのを僕は待っている
君を待っている 君を待っている
君の声が呼ぶのを僕は待っている

燕 (ツバクロ)

song & lyrics / frottageshi

信心深さも堂に入る ご利益頼みの日々に
ひねもすのたりのたりかな 遠すぎた春

朝の陽射し避けて 嗚呼
夜の露を避けて 嗚呼

あゝこの世界に独り そりゃあンたにや広すぎた
あゝ祈るだけで暮れて また黄昏よ

彼は誰時に投げかける 燕よいつこへ行きたもう
鼓膜の奥に棲み着いた 嘲笑する声

人の視線避けて 嗚呼
無駄な祝詞叫ぶ 嗚呼

あゝこの世界に独り そりゃあンたにや広すぎた
もう居場所なんてなくて ハッハ空笑い
あゝこの世界に独り そりゃあンたにや広すぎた
あゝ祈るだけで暮れて また黄昏よ

探し当てた この扉
硝子の向こう 覗いた 薄明かり
目をこらして 見るけれど
壊れそうで 儂い そんな実存

廻り出した 時計には
もう要らない 何時かの 郷愁だとか
夢見がちで 滑稽で
砕けそうな 私の 愛の歌

虚ろに 巡る願い
今夜 アマリタを舐め上げるように 愛し合う

アガルタの底で 見上げていた景色は
あなたの言葉で 甘い 世界に変わる

独りじゃ 揺れる想い
どんな キスしても それだけじゃもう 足りないの

今あなたとなら 初めて見る景色も
俯いたりせず ラララ 世界を笑う

固く閉じた 鍵を開けて 月の影で
今から愛し合う 嗚呼…

アガルタの底で 見上げていた景色は
あなたの言葉で 甘い 世界に変わる

今あなたとなら 初めて見る景色も
俯いたりせず ラララ 世界を笑う

泣きそうな 空の顔色 未だ遠い明日
ペチコートおさえて過ぎる パラキート 虹色

パラシュート 開いて降りた ソノシート聴きつつ
器用にすり抜けてゆく 街の名も知らず
奇妙な記憶が浮かび そして通り雨

ママレード塗りつけた空 魂を抜かれて
器用にすり抜けてゆく 街の名も知らず
奇妙な記憶が浮かび そして日が落ちる
ポストに宛名は「キミ」で 葉書を出したよ
コラージュまみれのそこに 思ってる事 ついに書けなくて

黄砂と 空白の起原
笑い出す アユタヤのラーチャサップ
放射能 雪と雲に
行き過ぎる 他所の人

もう馬鹿げた記憶も忘くして
さあその旨届くか果て迄

光速のサーキュレーター
君を増やすデュプリケーター
音速のデイトレーター
僕を壊すエリミネーター
過不足無く澱と成れ

走馬灯 褪せた景色
破り取る 薄手のパンジャビー
ゲーム脳 嘘と科学
出来過ぎの マルキスト

もう戯けた歴史も隠して

光速のサーキュレーター
君を増やすデュプリケーター
音速のデイトレーター
僕を壊すエリミネーター
過不足無く澱と成れ

古い時計欠けた鏡
息を潜めうずくまって眠る

服も着けず寒いくせに
狭い部屋で一日が終わる

ありふれた言葉ならべて
こと足りるようなら それでも

今すぐ叶えたい 不実な欲望
渦巻く下等な海 過日を渴望
Oh Load Save Our Souls

途中のカフカ 飽きたバロウズ
壁で笑うモノクロのウォーホル

口の中で冷めた言葉
喉の奥へ流し込んで笑う

ありふれた言葉ならべて
こと足りるようなら それでも

今すぐ叶えたい 不実な欲望
渦巻く下等な海 過日を渴望
Oh Load Save Our Souls

今すぐ叶えたい 不実な欲望
渦巻く下等な海 過日を渴望
Oh Load Save Our Souls

ルサンチマン

song & lyrics / frottageshi

過去に埋没されてた一粒種のルサンチマン
枕元に付けばお手上げ
悲しい所蝕む括約筋のトランポリン
空の彼方飛んで失せたら

盗聴された君の秘密の癖七つ全て
生き写しの姿で彷徨

飢餓の海峡横断震える下でタンブリング
メダル一つ受けてホクホク
嬉しい遊び嗜む自縄自縛のサンジェルマン
帝国魂滅び何処行く

豊胸された僕の秘密の胸軽く揉んで
吊るし上げてても無理は無い
紅潮してた君の冷たい頬 指で撫でる
だけど容れない訳があって ゴメンね

君がくれた手紙なら 早々火の中へ
鍵を掛けた部屋の中 少々手を焼かす
上に下に忙しいサービス旺盛な
裏のそれが何なのか不可解ですからね

過去に埋没されてた一粒種のルサンチマン
枕元に付けばお手上げ
悲しい所蝕む括約筋のトランポリン
空の彼方飛んで失せたら

紅潮してた君の冷たい頬 指で撫でる
だけど容れない訳があって ゴメンね

君がくれた手紙なら 早々火の中へ
鍵を掛けた部屋の中 少々手を焼かす
上に下に忙しいサービス旺盛な
裏のそれが何なのか不可解ですからね

君がくれた手紙なら 早々火の中へ
鍵を掛けた部屋の中 少々手を焼かす
上に下に忙しいサービス旺盛な
裏のそれが何なのか不可解ですからね
不可解ですからね 不可解ですからね

悼みの楽団西へ

song & lyrics / frottageshi

(instrumental)